

## 1 メチルセルロース

### 2 純度試験の項を次のように改める。

3 ◆純度試験 重金属 本品1.0 gを100 mLのケルダールフラス  
4 コにとり、硝酸／硫酸混液(5：4)を試料が十分に潤うまで加  
5 えて穏やかに加熱する。この操作を硝酸／硫酸混液(5：4)  
6 18 mLを使用するまで繰り返す。液が黒色に変化するまで穏  
7 やかに煮沸する。冷後、硝酸2 mLを加え、液が黒色に変化  
8 するまで再び加熱する。この操作を繰り返し、液が黒色に変  
9 化しなくなった後、濃い白煙を生じるまで強く加熱する。冷  
10 後、水5 mLを加え、濃い白煙を生じるまで穏やかに煮沸し、  
11 更に液量が2～3 mLになるまで加熱する。冷後、水5 mLを  
12 加えたとき、液がなお黄色を呈するときは、過酸化水素(30)  
13 1 mLを加え、液量が2～3 mLになるまで加熱する。冷後、  
14 水2～3 mLを加えて希釈した液をネスラー管に入れ、水を加  
15 えて25 mLとし、検液とする。別に鉛標準液2.0 mLを100  
16 mLのケルダールフラスコに入れ、硝酸／硫酸混液(5：4) 18  
17 mLを加え、更に検液の調製に用いた同量の硝酸を加え、濃  
18 い白煙を生じるまで加熱する。冷後、水10 mLを加え、検液  
19 の調製に過酸化水素(30)を用いた場合には、その同量を加え、  
20 以下検液の調製と同様に操作し、比較液とする。検液及び比  
21 較液にアンモニア水(28)を加え、液のpHを3.0～4.0に調整し、  
22 水を加えて40 mLとする。更にそれぞれチオアセトアミド・  
23 グリセリン塩基性試液1.2 mL、pH 3.5の酢酸塩緩衝液2 mL  
24 及び水を加えて50 mLとし、5分間放置した後、両管を白色  
25 の背景を用い、上方から観察して液の色を比較する。検液の  
26 呈する色は、比較液の呈する色より濃くない(20 ppm以  
27 下)。◆